

茶畑 S Rtimes

《テーマ設定発表会 概要》

1 月 31 日(土)1～3 校時に 1 年生による学術研究 I 「テーマ設定発表会」が開催された。学術研究 I では 1 1 月からゼミごとに分かれて、課題研究を進めてきている。今回の発表会は、各班の設定したテーマを発表し、聴衆（在校生/教員/外部参加者/T A）から指導・助言をもらうことで、今後の研究に活かしていくことを目的としている。活発な質疑応答が見られ、発表者・聴衆の双方にとって有意義な時間となった。



《各ゼミにおける発表の様子》

物理ゼミ

多くの班が顔を上げ、声の大きさや読むスピードなどに配慮した分かりやすい発表ができていた。2 年生の先輩方からは、1 年生の今後の発表に活かせるようなアドバイスを、質問とともに頂いた。様々な観点から、研究の可能性を広げるような指摘がなされ、有意義な質疑応答となっていた。質疑応答の時間で話す人が偏っていたため、その点は今後改善していきたい。

化学ゼミ

どの発表グループも自分たちの行う研究を真剣に発表しており、聴衆側も真面目に発表を聞いていた。発表後の質疑応答の時間では、どの班に対しても質問が多く投げかけられていて、それに対する答えも具体的に述べられていた。生徒全体が主体的に発信し、活発なディスカッションが行われており、良いゼミの雰囲気だった。

生物ゼミ

どの班も聞き取りやすい声で堂々と発表できていた。また、質疑応答の時間では積極的に質問が出ていて、有意義な時間となった。1 年生の発表においては、事前に調査した内容を十分に入れられてはいたが、時間が 1 分以上余る班も多く、もう少し用語や研究方法の説明に時間を割いても良いと感じた。発表後には 2 年生から 1 年生にアドバイスや良かった点を伝えていて、充実した発表会となった。

地学ゼミ

皆が真剣に準備を行っており、発表も集中して聞けていた。質疑応答の内容も多様であり、活発に活動できていた。アドバイスも多く寄せられ、発表方法について考えを深める良い機会となった。アンケートだけでなく観測なども行うことが多い地学ゼミだからこそ、実現可能性を想定することが大切だということがよく指摘された。

数学ゼミ

良かった点としては、聴衆の理解が浅い単語に説明を加えていたこと、質問に対する応答に聴衆への配慮が見られた事が挙げられる。一方で、原稿に頼っていたり、棒読みでどこを強調したいのかが分かりづらかったりするなど、発表時の姿勢には改善すべき余地があると感じた。80 回生は来年の 81 回生へ鋭い質問・アドバイスをするために、この先の学術で健全な批判力を養う必要があると思った。

情報ゼミ

一致団結して作業に取り組んでおり良い雰囲気だった。今回の発表においても、スライドや原稿を一所懸命に作成していた。担当の先生からは問題の原因をよく調査・研究し、それに対するアプローチを考えるべきだといったアドバイスを頂いた。2 年生の先輩方からも、役割を固定し、話したいことを掴んで発表すべきなどのアドバイスを頂いた。

国語ゼミ

発表者の方を見て真剣に聞いている様子が見られた。質疑では、仮説がややわかりにくく、ただの調べ学習になってしまう可能性があることなどが指摘された。それぞれの発表で三つほどの質問が出ていたが、1 年生からの質問が少なく、その点は講評でも指摘を受けた。総括すると、発表内容には改善点があったり、1 年生には聴衆としての反省があったりする一方、今後の学術研究の活動に活かしていける貴重な発見が多い発表会であった。

地歴ゼミ

地歴ゼミでは、多種多様で新鮮な発表が揃った。質疑応答では、アンケートやデータの信用性等に関するアドバイスなどが多く見られた。また、論理的な発表の組み立てに関するアドバイスや質問も多く、これはどの班にも共通する注意点だと思った。ゼミ担当者からは、発表の完成度の高さが評価された一方、その研究に取り組もうと思った理由や研究の意義など、研究の始まりにフォーカスしたアドバイスも多くなされた。

公民ゼミ

発表会の雰囲気としては、各自、レポートを熟読し、発表者とのアイコンタクトが積極的に行われていたと思われる。また質疑応答の場面では二年生の鋭い質問に対応する一年生の姿も見られ、充実しているように見えた。だが、一年生からの質疑が少なく、更に活発に行われるといい雰囲気・環境が作れると思った。

英語ゼミ

発表では、原稿頼みになっている人もいたものの、スライドを指差したり、アイコンタクトを取っていたりと、ポスター発表会の時よりもプレゼン力が上がっているように感じられた。質疑応答では、2年生から積極的に質問が出た。1年生の応答では、下調べ不足もあり、的確な返答ができなかった班もあったが、とても参考になるアドバイスを頂くことができた。

保体ゼミ

先輩に気軽にアドバイスを貰える環境で良い雰囲気の発表会だった。人を対象に研究を行う保険体育ゼミの性質上、被験者への誠実な対応が求められるため、コミュニケーション力に秀でる先輩方が多いのかもしれないと感じた。質疑応答も活発で、ここに関しても雰囲気の良さを感じられた。各班が新たな気づきを得ることができ、有意義な発表会となった。

音楽ゼミ

実演を含む発表で、臨場感を生み出していた。質疑応答では、受けた質問を即座に整理して要点をまとめた上で、簡潔かつ冷静に対応できていた。暗記を心がけ、抑揚をつけた話し方ができていた。今後研究を進めていくための効果的で有意義な発表にできていた。ゼミ担当者からは、実験対象を無理に広げず、小規模から行っていくと良いなどいくつかのアドバイスを受けた。

家庭ゼミ

学術研究に対してゼミ生一人ひとりが真摯に向き合い、先行研究を踏まえながら、高齢者の現状や課題について考察を深めていた。研究内容やスライド構成がよく整理されており、考えられる質問にも的確に対応していた点が印象的であった。質疑応答では、発表内容をさらに発展させるようなやり取りが多く見られ、全員で協力しながら研究を深めようとする姿勢が感じられた。

災害研究ゼミ

防波堤や土砂災害、非常食に関するテーマ発表が行われた。様々な観点からの質問が行われ、質疑応答では1年生の発言も多く見られた。また、先輩方の経験からのアドバイスや意見を各班聞くことができた。先生方からは、先行研究の扱い方や、土台となる足元を固めることの大切さなどを教えていただいた。活発に活動でき大変有意義な発表会となった。



編集後記

各ゼミ良い雰囲気で活動できていたことがうかがわれた。今回の発表会で得た学びを今後活かしていけるようにしたい。

